

Online Interview

海外ユネスコファミリーに訊く コロナ禍で大切に思うこと



未曾有のパンデミックで、私たちの活動は制限され生活は激変しました。独り時間が増え、孤独を感じる人たちが増える一方で、料理をしたり、楽器に挑戦したり、SNSを活用して新しい発想や行動を起こしている若者も多く出てきています。1998年にスタートした杉並ユネスコ協会の中学生クラブの活動には、この23年間に300人を超える海外の若者たちが参加してくれました。現在、ユネスコファミリーとして世界中で活躍している彼らは、コロナ禍で何を感じ、何を学んでいるのでしょうか。オンラインでのインタビューを通じて、ニューノーマル時代のキーワードを探ります。

◆インタビューの質問事項（2021年2～3月に実施）

- Q1 今、どのような生活をされていますか？
- Q2 新型コロナが広がり、あなたやご家族の生活はどのように変化しましたか？
- Q3 今後、世の中ではどのような力や能力が求められると思いますか？
- Q4 亀裂の深まった世界に必要なものは？その実現にはどうしたらよいと思いますか？

ともだちMAP

私たちと共に活動した仲間たちは世界中で活躍しています





Abdujabborov Ibrohimjon さん (24)

出身：ウズベキスタン
中学生クラブで自国紹介

Q1 今の生活は？

東京外国語大学での留学から帰国し、ウズベキスタンの大学へ戻りました。2021年の春に筑波大学大学院へ留学予定でしたが、コロナの影響で延期されています。

Q2 新型コロナによる生活の変化は？

2020年は家に隔離状態で半年間外出できず、生活全てが変わりました。当初はWi-Fiなどネット環境が整っていませんでしたが、徐々に整備され、授業もオンラインで行っています。また、物品は注文して届けてもらうサービスが物凄く増えました。バスには20人以上乗ることができない等、交通機関の制限があり不便です。

Q3 今後、世の中で求められる力や能力は？

「オンラインでの授業や仕事」がますます発展していくと思います。語学の勉強も、既にみんなYouTubeなどの動画で行っています。実際、世界中の授業を自宅で受けることができ、どこかへ出かけなくても、自宅で勉強できるようになったことは大きな変化だと思います。

Q4 亀裂の深まった世界を変えるためには？

人と人の中での「コミュニケーション能力」が求められると思います。自分のことだけを考えるのではなく、他人のことも考えなければなりません。日本での留学中、日本の学生はグループで固まって、話し掛けても恥ずかしくて立ち去ることがよくあり、日本人と話す機会が少なかったことは少し残念に思いました。私は将来、外交官になって、日本とウズベキスタン両国の関係を維持するために尽くしたいと思っています。



Ngiraiwet Esi さん (26)

出身：パラオ
ユネスコ教室、中学生クラブ、出前授業に参加

Q1 今の生活は？

琉球大学の国際地域創造学部で、主に観光経営を学んでいます。

Q2 新型コロナによる生活の変化は？

完全に引きこもりとなり、出かけるのが怖いです。パラオでは、コロナ感染者は一人も報告されておらず、4月中には全国民へのワクチン接種が完了する予定です。しかし、沖縄にいる私は帰国することも難しく、大学の授業もほとんどリモートで受けています。

Q3 今後、世の中で求められる力や能力は？

「言語力」と「コミュニケーション能力」がどこでも求められているのではないかと思います。良いコミュニケーションは、失敗や誤解、争いも防ぐことができると信じています。また、言語力はグローバル化を進めるために必須であり、各国の争いや紛争などを解決させることができます。

Q4 亀裂の深まった世界を変えるためには？

「お互いのことを分かり合う」ことが必要です。人間は理解していないことや分からないことを恐れる本能があります。それによって、争いや差別が生まれます。もし、お互いのことを理解していたら、差別を減少させることができるのではないかと信じています。その実現のために、ユネスコのような国際交流が必要です。



張 慶瑞 さん (20)

出身：中国
ユネスコ教室、中学生
クラブ、広島スタディ
ツアー、日中韓青年
ESD プロジェクト、出
前授業に参加

Q1 今の生活は？

明治大学の国際日本学部3年生で、授業はオンラインで受けています。卒業後はオーストラリアの大学院で建築を学びたいと思っています。

Q2 新型コロナによる生活の変化は？

生活の全てが変わりました。実家のある北京では感染者が少なく、数人出ると新聞の大きな記事になるほどで、東京よりも安心です。人の行動が厳しく管理されていることが要因の一つです。例えば、WeChat (※) を使って買い物をする時に電話番号が必要で、誰がいつどこで買い物をしたか記録されます。ただし、このような個人情報の管理に不満を持っている人もいます。

コロナ禍で両親との関係も大きく変化しました。私は日本に留学してから学校や遊びに忙しく、両親への定期的な連絡を全く行いませんでした。しかし、どこにも外出できなくなり、家族とのビデオ通話の回数が増え、

最近の出来事や子供時代の話をしたり、自分の考えを伝えて両親からアドバイスをもらったりしています。以前は厳しい親との間に距離を感じていましたが、コミュニケーションをとる時間ができたことで、家族の関係がとても良くなりました。

また、一人で静かに勉強する時間が増えて成績が上がったことは、自分にとってのチャンスでした。授業がオンラインになったことで、先生とやりとりをする機会が増えたり、ダイレクトに質問できたりと良いことの方が多いと感じています。残念なことは、コロナ前のように直接人と会って話し合う機会がないことです。

Q3 今後、世の中で求められる力や能力は？

「理解力」です。物事を正しく把握することだけでなく、他の人の考えを理解することが必要だと思います。今の時代は誰でも意見をぶつけ合うので、争い事が起きて良くないと感じています。国の習慣や文化が異なると物事の意味が変わる、ということを互いに理解して学ぶことが必要だと思います。

Q4 亀裂の深まった世界を変えるためには？

人は「平等」であることを理解することが重要です。中国では、同じ中国人でありながら、南と北では争いがあります。これは、今の世界情勢と同じです。私たちは男性や女性である以前に、みんな平等な「人」です。異なる文化の国に住むことで先入観が生まれますが、相手を理解することに努めなければならないと思います。コロナ禍で、人と人の距離がさらに遠くなったように感じています。

(※) WeChat/微信：LINEのようなチャット機能のほか、決済機能、税金の申請、オンライン診療など、あらゆるサービスが完結するアプリ。中国をはじめ約11億人の驚異的ユーザー数を持つ。



Thalia Trejo さん (20)

出身：メキシコ
中学生クラブで自国紹介

Q1 今の生活は？

シェフになるために、メキシコの料理学校に通っています。授業はオンラインですが、週1回は学校へ行きます。

Q2 新型コロナによる生活の変化は？

生活はいろいろ変わりました。コロナ前にしていたアルバイトが出来なくなったので、自分でペストリーを作って売ろうと思っています。両親も仕事がオンラインになり、生活が変わりましたが、家族との時間は変わりません。昼と晩ごはんを一緒に食べることや、土日に映画を観ること。そして、夜に友達と電話で話をすることも変わっていません。

Q3 今後、世の中で求められる力や能力は？

学生に限らず、先生にも「テクノロジーの使い方」の教育が必要だと思います。テクノロジーの使い方を知らない先生がたくさんいて、オンライン授業のやり方に困っています。若ければ若いほど時代の変化を受け入れやすいので、義務教育に一般テクノロジーの使い方やパソコンの操作方法などがあれば、このような問題を防いでいくことができると思います。

Q4 亀裂の深まった世界を変えるためには？

新型コロナに対する国民の意識を変えるためには、「政府の変化」が必要だと思います。中流階級以下の人たちは、大統領を信じています。政府が変わらないと、普通の人でも変わらない。きちんと手順を作成すれば、パンデミックのような問題を避けることができると思います。



Eric Yan さん (23)

出身：ブラジル
ユネスコ教室、中学生クラブ、広島スタディツアー、出前授業に参加

Q1 今の生活は？

漫画家になるために通っていた東京の専門学校を2021年3月に卒業し、帰国しました。去年は、一時帰国したブラジルからコロナで戻れなくなり、地球の裏側からオンラインで東京の授業を受けていました。時差があるので体力的にもハードな体験でした。

Q2 新型コロナによる生活の変化は？

もともと外出はあまりしないタイプなので、基本的には変わりません。食事が必要なければ、完全な引きこもりになりそうです(笑)。友達に会えないのは少し寂しいですが、以前から登下校に何時間もかけるのが無駄だと思っていたので、現在の方が楽です。

Q3 今後、世の中で求められる力や能力は？

「テクノロジーとIT」です。オンラインサービスはますます必要とされ、テレワークは標準になると思います。漫画・雑誌はウェブで読み、映画は配信サービスで観て、買い物はAmazonで済ませ、食事もフードデリバリーで提供されています。プログラミング業界でも、一つのプロジェクトを世界中の人が協力して進めています。他の業界や企業も同様で、オフィスの存在が消えていくと思います。

また、同じ過ちを繰り返さないためにも、若者はきちんと「歴史を学ぶ」ことが必要です。そして、年配の人たちは「考え方を柔軟に」変える必要があります。長年の経験は大切ですが、新しい世の中の条件に当てはまらないことも多く見られます。若者は状況に沿って変化することに慣れていますが、歳を重ねると自分の慣れた方法以外を否定するようになる傾向があり、これは世界共通だと思います。ブラジルは政治的にも複雑で一概に言えませんが、日本は特に伝統の影響力が強いと感じています。

Q4 亀裂の深まった世界を変えるためには？

「協力」と「知恵」です。自分の意見に関わらず、事実や良識で事情を判断することが大切です。コロナの脅威を否定する人もたくさんいて、人々が二極化したことは最も重要な現代の問題だと思います。今回、ブラジルとアメリカの関係を深く考えましたが、物事を客観的に捉えることが必要です。



姜 征旻 さん (34)

出身：韓国
日中韓青年 ESD プロ
ジェクトに参加

Q1 今の生活は？

慶應義塾大学法学部、同大学の国際政治学修士を経て、日本企業に就職。現在は、韓国語講師の仕事や、韓国の釜山にある実家の仕事の手伝い、日本での転職活動をオンラインで行っています。

Q2 新型コロナによる生活の変化は？

自宅での自粛生活やリモートでの仕事が増えました。また、2020年5月から日本で転職活動を行っていますが、緊急事態宣言によって中途採用が滞ったり、面接が突然中止になったりと大きな影響を受けています。そのため、無駄を無くし、節約生活を送っています。コロナ以前の生活と変わらないことは、食料の購入やジム通いくらいです。

Q3 今後、世の中で求められる力や能力は？

ダーウィンの進化論のように、進化し続ける世の中に臨機応変に「適応できる力」が必要です。また、好奇心を持って新しいことにチャレンジし、「学ぶ姿勢、能力」が求められる時代になったと思います。

Q4 亀裂の深まった世界を変えるためには？

自分と相手は異なるという前提で、価値観や能力等の「多様性」を受け入れること。そして、協調性を持って誠心誠意対応しようとする気持ちが大切だと思います。私は仕事を通して、日韓の架け橋になりたいと考えています。



鈴木 綾菜 さん (21)

出身：日本
韓国スタディツアーに
参加

Q1 今の生活は？

キングスカレッジロンドンのオンライン授業をイギリスで受けています。コロナ禍で一時帰国した時は、時差のある日本から授業を受けていたので、生活リズムのコントロールが少し大変でした。

Q2 新型コロナによる生活の変化は？

イギリスのロックダウン中は、今まで当たり前だった大学で授業を受けたりクラブ活動をしたり、外食に行くことが出来なくなり、初めは退屈しました。しかし、一緒に住んでいる友達と家の中で楽しみを見つけて日々過ごし、今ではインドアを楽しんでいます。生活は大きく変わりましたが、趣味のダンスをはじめ、自分が大切にしていることは変わらないので、オンラインという手段で継続しています。ロンドンでは未だにマスクをつけている人が少ない状況ですが、日本人はルールを守る国民であることを改めて実感しています。

Q3 今後、世の中で求められる力や能力は？

テクノロジーとどのように付き合っていくかを考えることが大切だと思います。全てがオンライン化し、有り余った情報が飛び交う中で、自分にとって重要なものを見分けるスキルが必要です。今後、IT化がさらに進んでいく中で、本来の人間の強みである「考える力や感情、創造性」を持つことが求められていくと思います。

Q4 亀裂の深まった世界を変えるためには？

亀裂が深まる理由として、メディアの存在も大きいと思います。ネットを通して誰でもニュースを発信できる現代は、正しい情報を見分けることがとても困難です。SNSやニュースに影響されたり、時にはあらかじめ決められている正解に当てはまるように、私たちの行動や考えが動かされてしまったり、私自身も随分とSNSやメディアに影響を受けていると感じます。分裂、対立しやすい世界において、「自分の意見」をしっかり持つこと、意見を持てるように勉強をすること、その上バイアスがかからないように自分で「情報を選択」することが重要であり、オンライン化が進んだ今だからこそそ気をつけていきたいことの一つです。



Kingsman さん (22)

出身：ケニア
中学生クラブに参加

Q1 今の生活は？

来日して3年になります。2021年3月に日本工学院を卒業し、4月から神奈川大学の経営工学科に進学します。

Q2 新型コロナによる生活の変化は？

生活面では、国費留学で文部科学省の奨学金をいただき、アルバイトもしていたので、経済的な不安はあまり感じることはありませんでした。社会面では、日本語も上達し、日本への理解が深まりました。母国とは全く違う文化、行動、食べ物ですが、この環境下で私自身が成長できた部分は数え切れないほどあると感じています。

母国のケニアは、コロナの影響を大きく受けています。私の家族は公務に関わる安定した仕事ですが、友人の家業では、従業員への経済的な圧迫が大きな問題になっています。多くのケニア人は安定した仕事に就いておらず、その日に稼いだお金でその日の食事を買います。したがって、厳しい緊急事態宣言が発令されると経済が完全に回らなくなり、貧しい状況で生きている人たちが最も影響を受けます。

Q3 今後、世の中で求められる力や能力は？

「コミュニケーション能力」だと思います。このスキルをうまく活かせると、会社でもプライベートでもプラスに働きます。そのために必要なことは、人の話に関心を持って耳を傾け、意見や結論を出す前に相手にどんな影響を与えるかをよく考えることだと思います。もちろん自分が考えていることをきちんと言葉にして、自分の表現力で相手の心を動かすことができる人は最高だと思います。また、「行動力」も必要です。行動しないと何も始まらないし、行動を起こすことによって、自分の考えはどれだけ現実的か確認でき、より良いやり方や答えも見つかるかもしれません。もちろん失敗もあると思いますが、難しい状況下でチャレンジし続けられる人は成功率が高いと、僕は信じています。

Q4 亀裂の深まった世界を変えるためには？

今、最も変えて欲しいことは、「人種差別」です。人間はどこで生まれたか、どこで育てられたかで判断すべきではなく、一人ひとりの価値や尊厳をもっと理解しなければなりません。人種差別の原因は様々ですが、最も多いケースは、差別する側の自信のなさから生まれていると思います。自分に自信がないから他人をいじり、そこで自分の価値を見出しています。また、自分が他の人より価値があると思っている古い考え方も同様です。このような人に時々会いますが、その人には自分自身の価値を知ってもらうことが大切だと考えています。私は日々、周りの人に優しく気を配り、いずれ「皆同じなんだなあ」と気づいてくれるように心掛けています。

インタビューを終えて

異なる国で生まれ、異なる環境で育ったユネスコファミリーの若者たち。彼らが共通して捉えていた時代のキーワードは、「コミュニケーション」でした。そして、より良いコミュニケーションを図るために最も大切なことは、「多様性の尊重と相手への理解」であると認識が一致していたことに心を動かされました。加えて彼らは、環境の変化に応じて「道具としてのテクノロジー」を柔軟に活用しています。

今、新型コロナウイルスの拡大によって社会の仕組みが激変し、答えのない時代が到来したと言われています。しかし、見方を変えれば新しいものを生み出す大きなチャンスでもあります。年齢や性別、国籍、価値観、企業の在り方など今まで当たり前であった枠組みが崩れ、「共存共栄の時代」が到来していることを、彼らとの対話の中で強く感じました。とかくネガティブな情報が溢れる中でも、コロナ禍で磨いた若者の感覚は、確実に未来を築く力となっていくでしょう。(インタビュー・執筆/西野裕代)